

船方農場グループの概要

山口県阿武郡阿東町徳佐 船方農場グループ
代表 坂本多旦

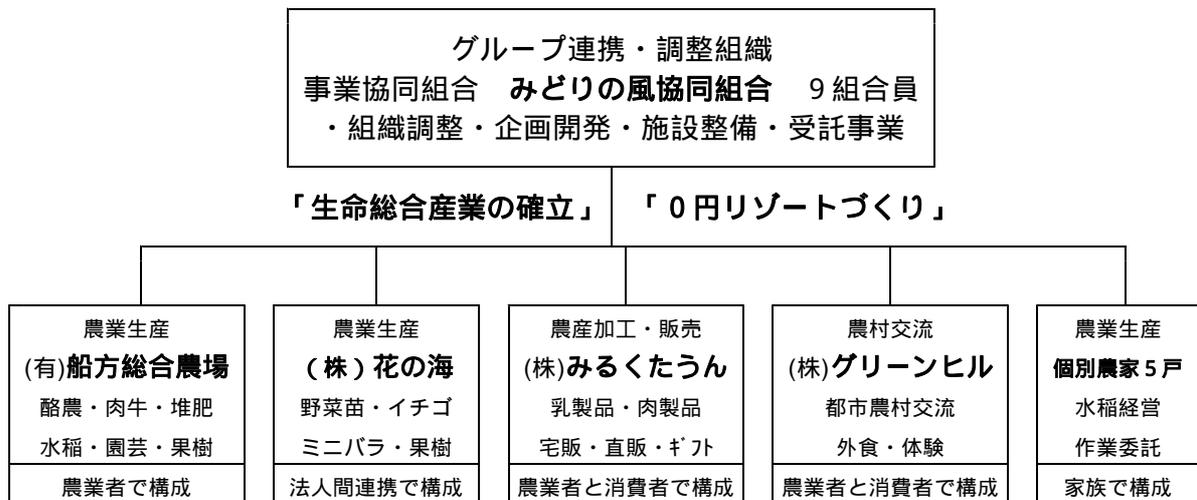
1. 地域の概要

中国山脈に囲まれた農地2,320ha海拔310mの自然豊かな中山間の農村である。南西に山口市、北東に島根県津和野町へ隣接し、国道9号線とJR山口線が縦断、国道315号線が横断する町。

2. 船方農場グループの現状

グループの構成 平成17年11月現在

[競争と協調のシステムづくり]



グループの就業者 平成17年11月現在 (花の海は含まない)

グループ合計 - 60名(男39・女21) ・農家出身17人 ・非農家出身43人

業態別就業者 - 農業26名 ・加工販売25名 ・交流3名 ・管理6名

年齢別就業者 - 20代(20) 30代(15) 40代(10) 50代(12) 60代(3) 合計(60) 平均年齢(39)

グループの土地利用 (花の海は含まない)

総面積 - 87ha (所有地50ha(57%)・借地37ha(43%))

業種別 - 農業73ha・加工販売1.5ha・交流7ha・管理0.3ha・山林5.2ha

農業内訳 - 水稻20ha ・畑地6ha ・草地31.5ha ・樹園1.2ha ・施設13.3ha 計72ha

グループの生産規模 (花の海は含まない)

農業 - 酪農153頭・肉牛134頭・堆肥17万袋・米101t・鉢花5万鉢・花苗50万ポット

加工 - 乳製品372t・肉製品5t・宅配ギフト顧客5,000戸(県内)・売店客35,000人

交流 - ・来客80,000人・外食客20,000人・イベント客8,000人

3. 船方農場グループの歩み

昭和44年 - 船方総合農場を設立 - 「基盤がないが村に残りたい、村に帰りたい者が集う」

昭和49年 - 大規模農業の確立 - 「大規模酪農による生産基盤の確立に取組」

昭和54年 - 地域複合営農の確立 - 「牛と水稻が連携した資源循環型の農業に取組」

昭和59年 - 都市農村交流事業の確立 - 「多面的機能を活かした0円リゾートづくりに取組」

平成 1年 - 農産加工・販売事業の確立 - 「加工・販売による安定した価格形成に取組」

平成 6年 - 生命総合産業の確立 - 「1・2・3次産業を連携し第6次産業の確立に取組」

平成15年 - 法人間連携の確立 - 「新法人を設立し「花の海開発」に取り組む」

4. 船方農場グループのコンセプト

- 「生命総合産業（第6次産業）」づくり 「競争と協調のシステムを確立する」
競争と協調の場づくり。「生産（1）×加工（2）×交流（3）=連携（6次産業）」
- 「新たな生産・流通・販売システム」づくり 「多様化した国民的消費構造への対応」
価値に対する価格形成を図り得る生産・流通・販売システムの構築。
- 「0円リゾート」づくり 「多面的機能の評価と活用」
消費者の農業認知の場づくり。「多面的機能の発揮・五感による生命体験の場」
- 「担い手」づくり 「農業に取り組もうとする者・大地を愛する者・そこから逃げぬ者」
新規就農者の受入と育成を図る。
分社化を推進する。
- 「システム生産農業」づくり
分社化を図り、システム化を推進する。
担い手のいない集落営農との連携を図る。

5. 船方農場グループの視点と課題

- 市場原理に基づく価格形成時代への対応 「価値に対する価格形成の確立」
- 多様化する消費構造への対応 「多様な生産・流通・販売体制の確立」
- 「家を単位とした時代」から「個人を単位とした時代」への対応 「法人化を推進」
- 農村地域の不在地主が拡大することへの対応 「農地の拡大と利用の団地化を図る」
- 地域社会は縮小し地域経済エリアは膨張することへの対応 「地域生産との連携を図る」

6. 船方農場グループのこれからの展開

- 農業生産事業 「複合経営の拡充」
 - 水稻部門の拡大 「規模の拡大と農地利用の団地化を目指す」
 - 酪農システムの改善と整備 「施設の整備と加工・販売との連携を強化する」
 - 園芸部門の拡大を図る 「新技術の開発と技術のマニュアル化を図る」
 - 分社化を推進し経営の強化を図る
- 食品加工事業 「安全・安心・美味しい商品づくり」
 - 乳製品の開発とブランド化を推進する
 - 衛生管理の充実とコスト管理を推進する
- 販売事業 「顧客の開発と拡大による計画的契約販売を推進し、地産・地消システムを確立」
 - 生産物の生産履歴を明確にし情報を開示する。「インターネットの活用を図る」
 - 牛乳と米の契約販売を拡大する 「地産・地消システムを形成し顧客5千戸を目指す」
 - 販売の合理化を推進する 「アンテナショップを整備する」
 - ギフト販売の拡大を図る 「インターネットの活用を図る」
- 消費者交流事業 「農業生産を活用する五感の場づくり」
 - 体感の場を拡充する 「グリーンセミナーの充実と0円リゾートの継承」
- 組織運営管理事業 「事業の多角化と組織化を図り、競争と協調のシステムを確立」
 - グループを拡大し連携の強化と組織管理の合理化を図る 「ネットワークの確立」
 - 6次産業（生命総合産業）の拡充を図る
 - 法人間連携による新たな「地域農業担い手法人の確立」「花の海開発事業」の推進
 - 地域農業との連携による「広域営農システムの確立」「命の里づくり構想」を推進